

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月30日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520440

研究課題名（和文） 現代スペインの諸言語の語彙に関する対比的研究

研究課題名（英文） A lexical study of the languages of Modern Spain

研究代表者

福嶋 教隆（FUKUSHIMA NORITAKA）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50102794

研究成果の概要（和文）：スペインでは、一般に「スペイン語」と呼ばれている「カスティーリャ語」以外に、カタロニア語、ガリシア語、バスク語などが用いられている。本研究では、これら4つの言語の基礎語彙約4000の対比一覧を作ってその比較を容易にし、またそれぞれの言語の借用語についての論文を発表して、多言語国家の言語使用状況の理解と語学教育に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This project focuses on the four major languages spoken in Spain, Castilian (Spanish), Catalan, Galician and Basque. It provides a table of about 4000 basic lexical items that compare the properties of these languages and four monographs about the loanwords in them. Together they show some aspects of the actual situation of a multilingual nation, and provide insight and recommendations for foreign language instruction.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 400,000 | 120,000 | 520,000 |
| 2011年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2012年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,000,000 | 900,000 | 3,900,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：その他の語学，スペインの諸言語，カスティーリャ語（スペイン語），カタロニア語，ガリシア語，バスク語，語彙論

1. 研究開始当初の背景

スペインの諸言語それぞれに関する研究は、近年我が国においても進展が著しく、ことに主要な4言語であるカスティーリャ語（スペイン語）、カタロニア語、ガリシア語、バスク語については多くの成果が公にされている。しかし各言語の構造そのものを単一

の視点から横断的に扱おうとする試みは、まだ十分とは言えなかった。

前回の科学研究費補助金研究（基盤研究（C））研究期間：2007～2009年度、課題番号：19520359、研究課題名：「現代スペインの諸言語に関する統語的研究」では、統語論において上記の問題を克服しようとしてつとめた。

今回は、同様の方針をとりつつ、各言語の語彙論に焦点をあてて研究を継続することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、多言語国家スペインで用いられている諸言語の語彙に関するさまざまな問題について、共通の問題意識をもった記述と分析を行うことにある。考察対象とする言語とその担当者は次のとおりである。

- A) スペイン語 (カスティーリャ語) : 福嶋教隆 (研究代表者)
- B) カタロニア語 : 長谷川信弥 (研究分担者)
- C) ガリシア語 : 浅香武和 (研究分担者)
- D) バスク語 : 吉田浩美 (研究協力者)

3. 研究の方法

上記4人の構成員がそれぞれの言語の語彙に関する問題を担当し、研究代表者がそれを統括した。

A) 平成22年(2010年)度

7月、研究チームは研究会を開催し、各言語に関する以下の発表を行った。① 福嶋教隆「名詞節を導く *creer* についての語彙的考察」、長谷川信弥「カタロニア語におけるアラビア語起源の語彙 *-al-* の有無について」、浅香武和「ガリシア語の接尾辞 *-ño/a* について」、吉田浩美「バスク語アスペイティア方言における〈ERG-ABS₁-ABS₂-du 助動詞〉の構想について」。

同日の討議で、① 最終年度に全国規模の学会で合同発表をすること、② 研究成果を報告書の形で公表することを目標に掲げた。また、「スペインの諸言語の基礎語彙対比一覧」を作成することを決め、諸言語の基礎語彙に関する文献の収集を開始した。

8月、福嶋教隆は中華人民共和国の北京外国語大学で開催されたスペイン学の国際学会で研究発表を行った。

翌年2月、長谷川信弥はスペインで資料収集を実施した。

同じく2月、吉田浩美はスペインで現地調査と資料収集を行った。

B) 平成23年(2011年)度

10月、研究会を開催し、各言語に関する発表を行い、以下の発表を行った。① 福嶋教隆「西製英語」、長谷川信弥「カタロニア語の評価接尾辞について」、浅香武和「ガリシア語の語彙：カスティーリャ語借用語」、吉田浩美「スペイン語の動詞の取り入れ方(バスク語アスペイティア方言)・インターネット関連の語彙(共通バスク語)」。

同日の討議で、最終年度の合同発表の統一テーマを借用語とすることに決定した。

6月、福嶋教隆はスペインのアルカラ大学で開催されたスペイン語・ポルトガル語圏に関する国際学会において、研究発表を行った。

7~8月、浅香武和はスペインでフィールド調査を行った。

翌年3月、長谷川信弥はスペインで研究者と意見交換をし、資料を収集した。

C) 平成24年(2012年)度

8月、研究チームは滋賀県で開催された日本スペイン語学セミナーに参加し、借用語に関する以下の研究発表を行った。福嶋教隆「西製英語」、長谷川信弥「カタロニア語における英語からの借用語について」、浅香武和「ガリシア語における語彙面のカステラニスモ」、吉田浩美「バスク語アスペイティア方言における、スペイン語から借用した「自動詞」の扱いと、構造への影響」。

この成果を踏まえて、11月に九州大学で開催された日本言語学会第145回大会において、ワークショップ「スペインの諸言語における借用語」を実施した。発表題目は以下のとおりである。福嶋教隆「西製英語」に関する一考察」、長谷川信弥「カタロニア語における英語からの借用語について」、浅香武和「ガリシア語におけるカスティーリャ語からの借用：語彙面からのカステラニスモ」、吉田浩美「バスク語アスペイティア方言における、スペイン語から借用された自動詞と *se* 動詞の扱いについて」。

9月、福嶋教隆はスペインのサラマンカ大学で開催されたスペイン学・スペイン文学の国際学会で研究発表を行った。

翌年3月、長谷川信弥はスペインで研究者との意見交換と資料収集を行った。

9月と3月の計2回、吉田浩美はスペインで現地調査と資料収集を行った。

3月、研究成果をまとめた研究報告書を刊行して、本研究を滞りなく終了した。

4. 研究成果

①平成24年(2012年)11月25日、九州大学箱崎キャンパスで開催された日本言語学会第145回大会において、ワークショップ「スペインの諸言語における借用語」を実施し、4人の構成員全員が口頭発表を行った(午前10~12時、E会場〈共同講義棟203号室〉)。

題目は「2. 研究の方法」に記したとおりである。4言語における借用語に関する問題を対比的に考察した。現代世界の一般的な傾向としての英語の影響と、スペイン国内の現象としてのカスティーリャ語の影響をとりあげた。第1, 第2の発表は前者、つまり英語がカスティーリャ語、カタロニア語に及ぼす影響の一端を考察した。第3, 第4の発表は後者、つまりカスティーリャ語とガリシア語、バスク語との関係について考察した。これによって、他言語国家と外との関係と、内部の問題を、語彙的な観点から浮き彫りにできたと考える。

参加者から多数の質問や意見が出され、活発な議論が行われた。これによって、全国規模の学会で合同発表をする、という当初からの目標が達成された。その要旨は日本言語学会誌『言語研究』143号、pp.157-159(2013年3月発行)に掲載されている。

②平成25年3月31日、研究報告書を刊行した。題名：『現代スペインの諸言語の語彙に関する対比的的研究』。著者：福嶋教隆、長谷川信弥、浅香武和、吉田浩美。構成：第1章「研究概要」、第2章「スペインの諸言語の語彙に関する研究」、第3章「スペインの諸言語の基礎語彙対比一覧」、第4章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」。A4版、188ページ、200部。

本報告書は、前回の科研報告書「現代スペインの諸言語に関する統語的研究」に引き続き、「スペインの諸言語のロゼッタ・ストーン」あるいは「現代のBiblia Políglota Complutense (アルカラ大学多言語訳聖書)」の一部を成すべく編まれたものである。

第1章「研究概要」(pp.11~14)は、本研究の趣旨の説明に充てられている。また、この章の前に構成員の平成22~24年度の研究・教育業績の一覧を掲げている。

第2章「スペインの諸言語の語彙に関する研究」(pp.15~58)は、平成24年(2012年)11月の日本言語学会第145回大会におけるワークショップ「スペインの諸言語における借用語」の概要に続いて、ワークショップでの発表内容を発展させた借用語に関する論考4本を掲載している。その内容は以下のとおりである。福嶋教隆「西製英語」に関する一考察」、長谷川信弥「カタロニア語における英語からの借用語について」、浅香武和「ガリシア語におけるカステイリャ語からの借用：語彙面からのカステラニスモ」、吉田浩美「バスク語アスペイティア方言における、スペイン語から借用された自動詞とse動詞の扱いについて」。この章ではさらにアストゥリアス地方で用いられるガリシア語であるエオナビア語に関する次の論考も掲載した。浅香武和「エオナビア語(アストゥリアスのガリシア語)における接尾辞 -in について」。

第3章「スペインの諸言語の基礎語彙対比一覧」(pp.59~166)は、3952項目について、4言語の語彙を日本語基準、原則として品詞別に配列した一覧である。語彙の選択にあたって多くの文献を参照しつつ、吉田浩美(1992)『バスク語基礎6000語』(大学書林)に記載された語彙を基本とした。語だけでなく定型表現も対象とした。カステイリャ語は福嶋教隆、カタロニア語は長谷川信弥、ガリシア語は浅香武和、バスク語は吉田浩美が担当し、吉田浩美が

編集した。次の59のセクションから成る。例：「1. 名詞(人間)」、「2. 名詞(身体)」、「3. 名詞(健康・医療)」、「4. 名詞(気象・天体)」、「5. 名詞(地形・災害)」、「6. 名詞(植物)」、「7. 名詞(食)」、(略)「47. 名詞(その他)」、「48. 代名詞」、「49. 基数詞」、「50. 序数詞」、「51. 接続詞」、「52. 疑問詞」、「53. 副詞」、「54. 形容詞」、「55. 形容詞など(色彩)」、「56. 前置詞(バスク語は後置詞または格語尾)」、「57. 動詞」、「58. 動詞(自他ペア)」、「59. 定型表現」。横一列に日本語と4言語の対応語彙を記載し、比べる便宜をはかっている。

第4章「スペインの諸言語に関する日本における文献一覧」(pp.167~187)は、これまでに蓄えられた知見の存在を知らしめる目的で編まれた章である。扱われた言語を左端に記号で記し、検索を容易にしている。前回の報告書に掲げた文献の漏れを補い、誤りを修正し、この3年間に公表された研究を追加した。

本研究は、カステイリャ語、カタロニア語、ガリシア語というロマンス諸語だけでなく、全く系統の異なるバスク語をも対象とすることによって、広い視界を得ている。また、いずれの言語にも偏らず4方向から照射することによって、スペインの言語状況を限なく浮き上がらせる点が大きな特徴である。今後もこのチームでの研究を発展させていきたいと願っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

- ①福嶋教隆「日西モダリティ対照研究史(1)」、『神戸外大論叢』(査読なし)、第63巻第3号、2013、pp.3-11、神戸市外国語大学。
- ②福嶋教隆「スペイン語の「役割語」—日本語との対照研究—」、『Clavel』(査読なし)、第2号、2012、pp.70-86、対照研究セミナー、神戸市外国語大学。
- ③福嶋教隆 “Las expresiones de rol en español. Un estudio contrastivo con el japonés”、『Cuadernos CANELA』(査読あり)、第23号、2012、pp.9-26、日本・スペイン・ラテンアメリカ学会。
- ④福嶋教隆 “Mario Vargas Llosa, el “inductor” en el Capítulo 25 de la NGLÉ”、『Cuadernos del observatorio de la lengua española en Japón』(査読なし)、2012、pp.38-45、Instituto Cervantes、在日スペイン大使館、京都外国語大学。
- ⑤福嶋教隆「スペイン王立学士院の叙法の取り扱いについて」、『神戸外大論叢』(査読なし)

し), 第 62 卷第 4 号, 2011, pp. 7-26, 神戸市外国語大学。

- ⑥福嶋教隆 “El modo verbal en la Real Academia Española”, *Lingüística Hispánica* (査読なし), 第 34 号, 2011, pp. 9-32, 関西スペイン語学研究会。
- ⑦福嶋教隆 “Sobre la variación geográfica de la alternancia modal asociada a la interrogación”, *Actas del VII Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas* (査読あり), 2011, pp. 232-242, 外語教学与研究出版社, 北京, 中華人民共和国。
- ⑧福嶋教隆 「スペイン語の主題に関する一考察—日本語との対照を通じて—」, 『ロマンス語研究』(査読あり), 2011, 第 44 号, pp. 11-20, 日本ロマンス語学会。
- ⑨福嶋教隆 「creer を主動詞とする疑問文の叙法選択の地域差について」, 『神戸外大論叢』(査読なし), 第 61 卷第 7 号, 2010, pp. 27-45, 神戸市外国語大学。
- ⑩長谷川信弥 「カタロニア語 quan 節におけるアラビア語起源の語彙についての考察」, *Estudios Hispánicos*(査読なし), 第 36 号, pp. 7-14, 大阪大学外国語学部スペイン語部会。
- ⑪浅香武和・浅野ひとみ・杉本嘉孝・森岡朋子・川成洋 「シンポジウム: スペイン, サンティアゴ巡礼の道を語る」, 『スペイン学』(査読なし), 第 15 号, 2013, pp. 2-30, 京都セルバンテス懇話会。
- ⑫浅香武和 “A versión xaponesa de Cantares Gallegos”, *Revista de Estudios Rosalinos*(査読あり), 第 4 号, pp. 311-315, O Padrón, Spain.
- ⑬浅香武和 「日本におけるガリシア語の研究動向」, 『日本イスパニヤ学会会報』(査読なし), 第 18 号, 2011, pp. 10-11, 日本イスパニヤ学会。
- ⑭浅香武和 「憧憬の詩人ラモーン・カバニージャスについて」, 『スペイン学』(査読なし), 第 14 号, 2011, pp. 102-107, 京都セルバンテス懇話会。

[学会発表] (計 12 件)

- ①福嶋教隆・長谷川信弥・浅香武和・吉田浩美 「スペインの諸言語における借用語」, 日本言語学会第 145 回大会ワークショップ (福嶋教隆 「西製英語」に関する一考察), 長谷川信弥 「カタロニア語における英語からの借用語について」, 浅香武和 「ガリシア語におけるカステールヤ語からの借用: 語彙面からのカステラニスモ」, 吉田浩美 「バスク語アスペイティア方言における, スペイン語から借用された自動詞と se 動詞の扱いについて」, 於九州大学箱崎キャンパス, 2012 年 11 月 25

日。

- ②福嶋教隆 “Las expresiones de rol: un estudio contrastivo entre el español y el japonés”, XIX Simposio de la Sociedad Española de Literatura General y Comparada, 於 Universidad de Salamanca, Salamanca, Spain, 2012 年 9 月 20 日。
- ③福嶋教隆 「西製英語」, XXXII Seminario de la Lingüística Española, 於アクティブラザ琵琶 (滋賀県), 2012 年 8 月 29 日。
- ④福嶋教隆 “Mario Vargas Llosa, el “inductor” en el Capítulo 25 de la *NGLE*”, Primer Foro del Observatorio de la lengua española en Japón, 於京都外国語大学, 2011 年 6 月 24 日。
- ⑤福嶋教隆 “La variación geográfica de la alternancia modal en la alternancia modal en las oraciones interrogativas de creencia”, XVI Congreso Internacional de la Asociación de Lingüística y Filología de la América Latina, 於 Universidad de Alcalá, Alcalá de Henares, Spain, 2011 年 6 月 7 日。
- ⑥福嶋教隆 “Las expresiones de rol en español —¿Cómo se traducen los *mangas* al español?” , 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会第 23 回大会講演, 於京都外国語大学, 2011 年 5 月 28 日。
- ⑦福嶋教隆 “Sobre la variación geográfica de la alternancia modal asociada a las interrogación”, VII Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas, 於北京外国語大学, 北京, 中華人民共和国, 2010 年 8 月 27 日。
- ⑧福嶋教隆 「スペイン語の主語に関する一考察—日本語との対照を通じて—」, 日本ロマンス語学会第 48 回大会, 於慶應義塾大学, 2010 年 5 月 22 日。
- ⑨長谷川信弥 「カタロニア語における英語からの借用語について」, XXXII Seminario de la Lingüística Española, 於アクティブラザ琵琶 (滋賀県), 2012 年 8 月 29 日。
- ⑩浅香武和 「ガリシア語における語彙面のカステラニスモ」, XXXII Seminario de la Lingüística Española, 於アクティブラザ琵琶 (滋賀県), 2012 年 8 月 29 日。
- ⑪浅香武和 「ガリシア語の詩と音楽 (1) (2) (3)」, セルバンテス文化センター講演会, 於セルバンテス文化センター東京, 東京, 2012 年 5 月 17 日, 6 月 15 日, 7 月 6 日。
- ⑫吉田浩美 「バスク語アスペイティア方言における, スペイン語から借用した「自動詞」の扱いと, 構造への影響」, XXXII Seminario de la Lingüística Española, 於アクティブラザ琵琶 (滋賀県), 2012 年 8 月 29 日。

〔図書〕(計 16 件)

- ①福嶋教隆・長谷川信弥・浅香武和・吉田浩美『現代スペインの諸言語の語彙に関する対比的研究』, 2013, 平成 22~24 年度科学研究費補助金(基盤研究(C) 19520359) 研究成果報告書, 188Pp。
- ②福嶋教隆『ミニマム・スペイン語』, 2013, 第三書房, 64Pp。
- ③福嶋教隆『気持ち伝わる! スペイン語リアルフレーズ BOOK』, 2012, 研究社, 208Pp。
- ④福嶋教隆 *Japón y España: acercamientos y desencuentros (siglos XVI y XVII)*, María Jesús Zamora Calvo 編 (“Sobre la traducción de la literatura japonesa al español”, pp.93-110, 322-325 を執筆), 2012, Satori Editores, Gijón, Spain, 354Pp。
- ⑤福嶋教隆・浅香武和『スペイン文化事典』(川成洋・坂東省次・編)(福嶋は「日本におけるスペイン語教育」, pp.584-585 を執筆。浅香は「ガリシア語」, pp.558-559 を執筆), 2011, 丸善, 886Pp。
- ⑥福嶋教隆 *Encuesta sobre problemas sintácticos de la lengua española (3) Costa Rica, Venezuela, Ecuador, Perú, Bolivia y Uruguay (Proyecto VARIGRAMA)* (高垣敏博・編)(基礎作業の 5 分の 1 を担当), 2011, 平成 20~22 年度科学研究費補助金(基盤研究(C) 20520349「地理的変異に基づくスペイン語の統語研究」研究成果報告書, 450Pp。
- ⑦福嶋教隆『DVD 付 愛でる! スペイン語』, 2010, 朝日出版社, 76Pp。
- ⑧福嶋教隆・ナカガワ マルガリータ『基礎徹底マスター! スペイン語練習ドリル』(福嶋は 2 分の 1 を執筆), 2010, NHK 出版, 128Pp。
- ⑨長谷川信弥『世界の言語シリーズ スペイン語』, 2012, 大阪大学出版会, 176Pp。
- ⑩長谷川信弥・山田敏弘『日本語から考える! スペイン語の表現』, 2011, 白水社, 165Pp。
- ⑪浅香武和『スペイン語事始』, 2013, 同出版社, 166Pp。
- ⑫浅香武和・坂東省次・桑原真夫・編『スペインのガリシアを知るための 50 章』(3 分の 1 を担当), 2011, 明石書店, 。
- ⑬浅香武和『憧憬の詩人ラモーン・カバニージャス』, 2010, 東京カラー印刷, 74Pp。
- ⑭浅香武和 *As Sete Cantigas de Martín Codax en des idiomas* (Xesús Alonso Montero 編)(pp.90-97 を担当), 2010, Consello de Vigo, Vigo, Spain.
- ⑮吉田浩美・萩尾生・編『現代バスクを知るための 50 章』(全体の 2 分の 1 を担当),

2012, 明石書店, 368Pp。

- ⑯吉田浩美『ニューエクスプレススペシャル ヨーロッパのおもしろ言語』(町田健・監修)(「VII. バスク語の世界」のうち「3. 発音と表記」以下の項(pp.130-147)を執筆), 2010, 白水社, 188Pp。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福嶋 教隆 (FUKUSHIMA NORITAKA)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号: 50102794

(2) 研究分担者

長谷川 信弥 (HASEGAWA SHINYA)
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
(平成 25 年 4 月 1 日より教授)

研究者番号: 20228448

浅香 武和 (ASAKA TAKETAZU)

聖心女子大学・文学部・非常勤講師

研究者番号: 20516348

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

吉田 浩美 (YOSHIDA HIROMI)

早稲田大学・

オープン教育センター・非常勤講師

(平成 25 年 4 月 1 日より神戸市外国語大学客員研究員)

研究者番号: 70323558